大正九年四月一日發行 大正九年三月二十六日印刷納本 (毎月一回一日發行) 明治三十七年五月十七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十七巻 四月號

目次

女子青年界目次

第十七卷第四號
大正九年四月號

御用の節は『女子青年界』の廣告で見たと御申添下さい

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334

◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種



東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

婦人之友社の三大雜誌

「婦人之友」

毎月一回一日發行

一冊金四十錢 郵税一錢五厘

主幹 羽仁とも子

「まなびの友」

毎月一回一日發行

一冊金廿五錢 郵税一錢

主幹 羽仁もこ子

「子供之友」

毎月一回一日發行

一冊金廿五錢 郵税五厘

主幹 羽仁もと子

東京雜司ヶ谷 婦人之友社 電話番町三六九八 振替東京一一六〇〇

大橋房子著

最新刊

感想集

葡萄の花

三六判函入
裝幀極美
定價未定

イスラエル物語

再版

陽の目見ぬ蒼白な若芽のやうに幼い命の寢覺めの露にも似た此の小さい物語りを、萌え出んとする純眞な生命の芽或ひは未だ果皮の奥に睡つてゐる小さい生命の實の苗床なる凡ての淸く溫き家庭に献げます。（著者）

四六判五百餘頁
定價二圓
送料十二錢

新刊

慶應大學醫科大學教授理學博士 谷津直秀新著

母の愛の進化

定價一圓二十錢
送料八錢
袖珍裝幀箱入
美本寫眞二十五葉

動物の母が子を愛することは誰れでも知つてゐることであるが、如何なる程度に兒を愛するか、人の母が子を愛するのと如何に異れるか。人の母の愛が進化して動物の母の愛から出てきたものかといふ問題を種々面白き例を舉げて論じたものが本書である。どこの國の語で書いてあるものでもかく面白い材料を一冊に蒐めてあるものはない。母も讀んで面白く子も讀んで面白い。

販元 東京橋尾張町 警醒社書店 振替東京五五三 電話銀座一五八七

女子青年界 第十七巻 四月號
大正九年四月一日發行

會説

偶然ならざる事實

「神の存在と靈魂の不滅とは唯信ずべきことにして二十年考へても二千年考へても解する事の出來ぬものである」とカーライルは申て居るさうです。私共は一方に研究と考察とに依つて知らなければならぬ多くの問題を有して居ると同時に、他力には幼子の如き單純さを以て信ずべき事實をも與へられて居ります。

人と人との愛の關係は、互に一切を知りつくした結果、到着した解決ではなくして、信ずる事に依て成立つものでありませう。私共は、親の愛を説明せよと云はれましても、其最も深い所は到底説明する事が出來ません。唯其愛は事實私共の心の中に、又生活の上に、力となり生命となつて働いて居るといふ經驗を握つて居ります。人と人との關係が、打算と利害觀念とを超越した純眞なものであればある程それは説明しがたい信と愛とに深い根底を有して居るものでありませう。

斯く容易に其對照を目撃し得る人と人との間に結ばれた愛の關係に於てさへ、其所に理智の到底量り得ない神祕の存するものであれば、まして靈界に對

照を置く神と人との關係に於て、知り得ざれども、信ずべき事のあるのは、當然のやうに思はれます。

深い親心から出た企が、唯自己の現在と周圍とだけしか見る事の出來ない子供に解し得られぬ場合、彼は自分の小い頭の中に、親の深大な企を入れ得ぬからとて、それを放棄して顧みないといふ大膽を敢てせぬとも限りません。そして自分は如何にも合理的な事をでも爲したかのやうに、反つて自己の賢明を誇らしくさへ感ずる事があるかも知れませんが、衷心の不安が、ともすれば其誇に伴ふのはどういふ理由でありませうか。キリストを與へ給ふた神の愛は、私共の到底解釋し得ぬ程、深い廣いものであります。それだからとて、其愛を不合理とし、あり得べからざる事とするのは、果して人の本心の斷定でありませうか。人の心が何物にも欺かれず、混惑されず、眞に衷心の叫びを發する時、即ち人が最も眞劍になつた瞬間、彼の心はやはり愛なる神に向ふのであります。斯く人の心は自ら神の存在と、其神は愛である事を證して居ります。

さて救主の受肉降誕と、彼の生涯とに依り人類に示された神の愛は、彼の死と甦りとによつて一層明かに完全に顯されました。此最も深い奧義、而して又最も明かな事實に人の生命はかゝつて居ります。

一粒の麥もし地に落て死ずば唯一にてあらん、もし死なば多くの實を結ぶべし。（約翰傳十二章二十四節）

汝がまく所のもの先づ死なざれば生きず。（前書十五章三五）

此眞理を解し得るものがありませうか。花壇に種子を蒔く人は、其中から生々とした芽の出づる事を信じて、土の中にそれを埋めます。然し一粒の種子の中にある生命は誰が之を見得るでありませうか。それは丁度、人の內にある靈魂を見る事が出來ないと同樣です。どうして小い種子の中から、生々した芽が出るのでせう「之が芽になるのです」と學者は種子の中の白いやうな部分を示して敎へてくれます。然し生命そのもの、土の中で甦る生命其ものは、顯微鏡も之を示す事は出來ないのではないでせうか。

斯く自然界にも亦、私共の解し得ない神秘的事實の存して居る事を見るのであります。一粒の種子の生命を解し得ぬ人間にとつて、キリストの復活が更に更に大きな不思議である事は申す迄もありません然し之も亦事實であることを信ずるのは、困難な事ではないと思ひます。

若しキリストの甦がなかつたならば、死は人間の最終であり、此世の生活は私共の全部であると考へる外に道がありません。正しくして而も貧苦の中に虐げられつゝある人、正しからざるに富と名譽とに飽ける者、左の手の善業を右の手に知らさゞる隱れたる愛の人、罪に罪を重ねて尚罰せられざる惡人斯る社會の有樣は、此世の生活のみでは到底解し得ざる矛盾であります。眞面目に考へる者程、此有樣を見て深く惱まされます。然しキリストを信ずる者は、永生に望をかけて、地上に報を望まない愛の勤行を續けて居るのです。私共に永生の望が明であればある程、此世の生活の歩調は高められ、潔められ眞にキリストが歩み給ひし如く歩み得るに至るのでありませう。

若しキリストに由れる我等の望唯此世のみならば衆の人の中にて最も憐むべき者なり。然ど今キリスト死より甦りて寢りたる者の復生の首となれり。(哥林多前書十五章十九、二十節)

父なる神の愛の唯一完全なる顯現、救主キリストの生涯が若し十字架に終つて居たならば、彼の非業なる最後が、苦しみにある人を慰め力づけるといふ消極的の救を與へるのみで、キリスト教は終つたかもしれません。私共を生かす力は、實に死に勝ち給ひし復活の主にある事は、信ずる者の經驗であり、活ける主と共に歩む事、之即ちキリスト者の生活であります。復活の朝、主が第一に顯れ給ふたのは、マグダラのマリアであつた事を思ひ起します。彼女は悲しみ嘆きにある人達にエスの復活の吉報をもたらした第一の人でありました。幼子の如き單純なそして碎けたる悔し心の者に、キリストは必ず伴ひ給ひます。

萬物新なる力に充され、生命の溢れ來るを止め得ぬ年の此頃、キリストの甦りを記念するのは、眞に偶然ならぬ心地がせられます。

十字架の冥想

大連日本基督教會 牧師 三好務

十字架はフイニシヤより輸入せられた刑具であつた。ロマ人は之を奴隷や外國人や征服せられた罪人を罰する極刑の具として用ゐたものである。從ふて十字架はユダヤ人には躓くもの、ギリシヤ人には愚かなるものであつた。（コリント前書一〇二三）併しこの愚かなるもの、躓くもの、忌むべきものが信ずる人にとりては神の力となつたのである。此所に力と譯してある字はダイナマイトといふ字の原語である。ダイナマイトは大磐石をも粉砕する力を有して居る。忌み嫌はれた十字架は惡魔の工を毀ち、罪を破壞する神の力と成つた。博士フエアバアアンの言ひし如く「基督の十字架は宛然神の輝ける眼の如く人を魅して之を捉へ、其不思議なる物語に傾聴せざるを得ざらしむる」魔力を有して居る。我等は馬太傳二七〇四六節を觀察點として十字架の意義を冥想して見たいと思ふ。

「我が神、我が神、何ぞ我を棄て給ふや」人類の救主イエス・キリストが斯く叫ばれたことは如何にも不思議である。

（一）「恐るゝ勿れ我既に世に勝てり」（ヨハネ一六〇三三）との確信が急に崩折れて、人間に共通なる弱點が曝露したのであらうか。彼の名の爲には火に燒かれ、水に溺れ有ゆる極刑に處せられても、びくともせなかつた幾千幾萬の殉教者の憧憬の中心なるイエスが、かくあるべしとは如何にしても考へる事が出來ない。

（二）されば、これは人智の遠く達し得ざる神秘的經

驗であらうか。さもありぬべきことである。併しイエスの經驗が全く諒解し得ぬ經驗でありとすれば、彼と我等とは全く沒交渉でなくてはならぬ。何等の理解なくして、十字架が神の輝ける眼の如く我等を捉ふることは出來ない。

(三)故に吾等は此語は、世の罪を負ふ救主の苦痛が聲となつて、發露したのであると言ひたいのである。使徒パウロは「神罪を知らざる者を我等の代りに罪とせり。これ我等をして彼に在りて神の義とならしめんが爲なり」(コリント後書五〇二一)と叫んで居る。「罪を知らぬ人」はユダヤ人の思想及び信仰には、有り得べからざることであつた。啻に神學上あり得べからざる事であるのみならず、倫理學上の大秘義と云はざるを得ない。義にして聖なる神を認めて、罪なき人はあり得ない。德が高まり品性が潔まれば潔まる程己の及ばざる所、神と我との懸隔の甚しき事が分つて來る。「主よ我をはなれ給へ、我は罪人なり」(ルカ傳五〇八)と恐れ戰かざるを得なくなつて來る。併し此處に唯一人罪を知らぬ人がある。之ナザレのイエスである。

(一)イエスは罪の意識がなかつた。彼の如く、深く聖なる神を信じ、酷しく他人の罪を責めた人はない而も自らは何等罪の意識がなかつたのである。

(二)啻に罪の意識がなかつたのみならず、初代の教徒は異口同音に彼の無罪を主張して居る。彼の周圍に集つて其行狀を見、其敎をきいた弟子等も何等の罪を發見することが出來なかつた。のみならず、「我等其榮を見るに實に父の生み給へる獨子の榮にして恩寵と眞理にて充てり」(ヨハネ一章一四)と恐嘆せざるを得ざらしめたのである。

(三)イエスは又全能至聖の神が審判しても、罪なき人であつた。彼は即ち人類に共通せる罪といふ經驗を有せざる唯一の人であつた。罪のないといふ事は神と人とを相和がしむる必須の條件である。マイナスの符合の增加や延長では罪の世界は帳消しにならぬ。負債だらけな道德の世界にプラスの符號が這入り來りて、初めて差引勘定が出來る。これが我等の

救主イエス・キリストである。

この「罪なきイエスを神は吾等の代りに罪（罪人にあらず）となし給ふた。」如何にして斯る事が出來るであらうか。曰くこれ愛の奇蹟である。愛は曠野に水を流れしむる力である。愛は沙漠に蕃紅の花を咲かしむる力である。而して其愛はイエス誕生の時に始まつたのではない。「世の始より殺され給ひし羔（キリスト）」とある。即ち創世の始より父なる神の胸の中には、既に十字架があつたのである。此父の愛に加へてイエス御自身の愛がある。かく十字架は父なる神と子なる神との愛の奇蹟であつた。然し其愛は決して神の愛、キリストの愛と區別すべき二樣の愛ではない。神の愛はキリストの愛である。神とキリストとは一つである。故にキリストに現れた神の愛がこの奇蹟を爲したのである。

一體愛といふものは苦しむものである。他の苦痛を自己の苦痛とせねば止む能はざるもの、これが即ち愛である。從ふて神が罪なき者を罪人の爲に罪と爲し給ふたといふことは、最も深き愛の奇蹟なるが故に、最も大なる苦痛であらねばならぬ。

我等の經驗する苦痛に二つの種類がある。其一は（一）親心の苦痛である。例へば病兒の爲にする親の苦痛であつて、病に苦しむ子よりも、健康なる親が苦しむのである。其病が重ければ重き程、親心が深ければ深き程其苦痛が大きい。能ふべくんば危篤の病兒に代つて、我が生命を縮めても、我子の生命を救ひたいと思ふ。彼のラオコオンに現はれて居る思想が即ちこれである。親子共に大蛇の爲に苦しんで居る。然るに兩兒の顏に現はれた苦痛の表情よりも、父の顏に現はれた苦痛の表情が遥に深刻に見える。是自己の爲にする苦痛よりも、兩兒の苦しむを見るに堪えない親心の苦痛を示したものである。

（二）は罪人の爲にする罪なき人（絶對の意にあらず）の苦痛である。例へば一放蕩漢あらば、その一人の爲に一家は悉く苦しむのである。而して一番苦しむのは家族中で一番品性の潔い、一番德の高い人であ

る。放蕩漢は放蕩を樂しむことが出來る。併し貞潔なる妻、無心の小兒は其罪を負ふて苦しむのである其品性が潔ければ潔き程、其德が高ければ高き程、その苦痛が深くなつて來る。故に全く罪なき人にして初めて罪の苦痛を充分に經驗する事が出來るのである。此兩樣の苦痛を無限に擴大して、一つに併せたものが十字架に於るキリストの苦痛であつた。彼の胸中に溢れて居る天父の親心は、全人類の親心よりも深く且切なるものであつた。故に罪に墮落して瀕死の狀態にある子なる人類を思ふて苦しむ苦痛は甚深であつた事は申す迄もない。

　然るに今十字架の上より見廻して見ると、有ゆる罪がキリストを繞つて居るやうに見えた。祭司等の不法、ピラトの卑劣、刑を執行する人々の殘忍、群衆の冷酷——罵り騷いで居る人々の顏は、宛然百鬼夜行の姿に見えた。惜むべく恐るべき人類の罪が千態萬樣、パノラマの如く彼を迫め圍んで居る。白百合の如き彼の至聖至愛の心は、罪の壓迫を極度に感ぜざるを得なかつたのである。げにやアイザック・ワッツの歌ひし如く「神人の罪を負ひ給へば照る日もかくれて暗黑と成つた」のである。此暗黑は自然界ばかりでなく、靈の世界にも及んだやうに思はれる罪の壓迫ひし〳〵と其純白なる心を圍み、天父の靈交忽ち途絶えたと感じた瞬間、イエスが「我が神我が神、何ぞ我を棄て給ふや」と叫び給ふたのである、即ちこれ至聖の心もて、罪を悲しみ歎き、甚深の愛を以て罪人の罪を一身に負ひ給へる救主の苦痛が、聲となつて發露したのである。

　我等には相交感する性質がある。笑顏を見れば微笑を禁ずる能はず、悲しめる人を見れば涙を誘はれる。罪の恐るべきを見れば移らんことを思ひ、德の高きを見れば傚はんことを願ふ。エマソンの詠じけん如く「我等は地球と七曜星と曆年とシイザアの腕とプラトウの腦と主キリストの心とシエキスピアの歌心とを持つて居る」我等と彼等に共通の點があるさればこそ我等はシエキスピアの詩を解し、プラト

ウの哲學を論じ、主キリストの心に共鳴する事が出來るのである。既にキリストの心に共鳴する事が出來れば、罪の怖るべく、惜むべき所以が明になつて來る。神とキリストの大なる愛が十字架を通じて、我等の心裡に刻まれて來る。

或所に美しき乙女があつた。然るに其母の顔は見るに忍びない程醜い瘢痕だらけの顔であつたので、乙女は其醜さを恥ぢて、一緒に外出する事をさへ厭ふに至つた。或日の事、其母は娘を呼んで、瘢痕の由來を說明して聞かせた。乙女が漸く匍匐ひの出來るやうになつた頃、玩弄物の積りで鐵瓶をひつくり返した。彼は全身熱湯を浴びて、死なぬ迄も大負傷をせねばならぬ危機一髮の際に、母は跳んで來て、身を以て其子を庇ふた。子は無事であつたが、母はあらぬ姿の人となつたのである。これを聞いた乙女は、醜い母の顔と美しい我が顔との間に、深い關係のあることが分り、慚愧の情、感恩の念、涙と溢れて、今は愛の光に輝いて見ゆる母の顔に、我顔を押しあてゝ聲を揚げて泣いた。その時よりして彼女は不孝な娘ではあり得なかつたのである。

我等の救主と、キリストの十字架との間に、これと相似た深い關係があることが理解せられた時に、十字架は神の輝ける眼の如く、我等を捉へ、我等を魅し、其奇しき物語に傾聽せざるを得ざらしむるのである。我が罪赦されたりとの我等の意識は、全くイエスの十字架に基く。我等の罪は、彼の罪となつて十字架につけられた。彼の義は我等の義となつて永遠の生命に至るのである。

併し、我等は果してキリストの死を、斯くの如く諒解して居るであらうか。十字架が神の輝ける眼の如く、我等を魅する力となつて居るであらうか。

シギスムンド・ゲエッエの「賤しめられて棄てられたり」といふ繪がある。中央には十字架上に惱めるキリストが描かれてある。周圍には群衆を煽動して居る政治家や、酒杯を手にして居る勞働者や、卷煙草を喫ふて居る美術家や、心勞にやつれ果てゝ居る

人物や、表紙の馬鹿に綺麗な書物を持つて居る遊び人や、試驗官を覗き込んで居る科學者や、新聞の賣子や、ハイカラ男に笑顏を見せて居る花賣娘や、平和の君の苦を見向もしない軍人や、父のない子を膝に抱いて居る淪落の女や、悲哀の重荷を脊負ひかねて居る寡婦や、說敎の題目をのみ涉獵して居る牧師や、唯一人として十字架上のエスを見上げて居るものがない。唯一人看護婦がエスを見上げて居る。然し其表情は、職務柄痛手に苦しめる人に同情を寄せて居るといふに過ぎない。全幅悉くキリストの愛に對する人類の不信を寫したものである。かくては敎主の死は犬死となつて終う。天の父は救主を賜ふ程に、我等を愛し給ふて居る。主は我等罪人の代りに十字架に死し給ふた。其表徵たる十字架を省みず信ぜず、冥想せないといふことは、最大の愛を土足にふみにじり、最上の賜物を足蹴にかける事であるこれ豈心あるもの丶堪え得る事であらうか、昔ジンゼンドルフ伯は、スチンパアグの描ける十字架のキリストを見、其下に「我は汝の爲に此事を爲せり。汝は我が爲めに何をなさんとするか」と記されたる題字を見て、大なる感激を催した。モラヴィアン派の大運動は、この感激に基くといつても過言ではあるまい。豈一人ジンゼンドルフのみであらうか。輝く御國にのぼる日迄、十字架は我等の冥想であらねばならぬ。

エマソンとカーライルとは代表的二大偉人と思ふが、滿足と平和の中に生活して居たエマソンよりも、不滿と不平の中に、大なる煩悶の中に時に人間を蛆の如く見て叫んで居たカーライルの方がより大なるタイプのやうに思はれる。即大聖には大悲哀があり、大人格には大煩悶があり、大藝術には大不滿が存する精巧を極むる藝術家の目には一點一畫の相違も非常なる痛苦を與へ、巧妙なる音樂家の耳には、寸毫の不調子が居ても立つても居られぬ程の衝動を惹き起す。吾人各自内省してかゝる藝術家の心存するや否や。神よ罪人なる我を憐み給へとの祈は、果して我等の祈となつて居るであらうか。聖徒たらんと工夫する者は、須らく此祈禱を捧げねばならぬのである

(敎界時報より拔萃)

奬勵

理想、模範、力、

山室軍平

青年學生が基督を信ずる事に依り與へらるゝ二三の事を簡單に申上げ度い。

第一、我々は基督に依つて高い理想を與られる。即ち基督を信ずる事により、それでなければ醉生夢死した私共が、高尚な理想に依つて立つ事が出來るに至る。神は父であり、我等は其子供達である。子供達同志であれば、我々は互に兄弟でなくてはならぬ。我々は皆一つのホームに屬する家族の一人であつて、其家庭は、愛を家憲とする事が基督の聖旨である。而して斯るホームを建る事は、人心の改造に依らなければならぬ。勞働問題にしても、普通選擧にしても、眞の解決と成功とは、人心を改造する事に依て達し得べきものである。學生諸君、神と國民との要求は實に此人心改造に存して居り、而してそれは唯基督者學生のみがよくなし得る事である。

新島襄氏が青年時代品川を通つた時、當時所謂黒船と云はれた外國船が沖に浮んで居るのを見た。如何かして自分も日本にあの樣な文明を持つて來たいものであると、此望が終に彼を米國に渡らせたのである。米國で勉學中彼は一卷の聖書を手に入れた。讀み行く中に約傳三章十六節「それ神は其生給へる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり、此は凡て彼を信ずる者に亡ぶる事なくして永生を受しめんが爲なり」の句に至つて胸を打れ、日本に必要なるものは、決して物質的文明ではない、人心の改造こそ緊急の問題であると悟るに至つた。而して彼は我國民の魂の改造に身を投ずるに至つたのである。

本多庸一氏は、代議士に打つて出でゝ、國民の指導者とならうと決心し、米國に留學した。或日鐵橋を渡つて居た時、橋の眞中で長い列車が向ふからやつて來るのに出會つた。其時自分の生命は最早やなきものと思つたといふ。けれど九死に一生を得た瞬間、彼はもう代議士ではない、國民の靈魂の救ひ手にならうと決心したのである。

「代議士になり度い人間は、宗教家になるな」とスポルジヨンは云ふて居る。

我々は基督によつて與へられた理想を、其儘に受け、其理想に向つて立つのである。

第二に基督に依て我々の與へられる事は模範である。彼は理想を與へ、同時に模範を與へ給ふた。彼如き模範はない。而してそれは十字架を以て終止する事である。彼の生涯は十字架を以て一貫せられた。

新島襄氏は米國留學中約傳十三章を讀みし時、卷をとぢて泣いたといふ。基督の謙遜に心打たれたのである。其時自分も同胞の汚れ足を洗ふ奉仕の生涯を送らうと決心された。それ以後彼は讀み來つて此章に至る毎に、涙なしには讀み得なかつたさうである。

岡山孤兒院の創立者石井十次氏は一冊の聖書を持つて居た。之は其頃七十五錢のものであつたが、彼にはそれを買ふ金がない、何でも二三度斷食して買つたとか聞いて居る。それを開いて見ると、明治一年一月より實行、明治一年一月より斷行と書入れた個所が澤山ある。約傳十三章十五節「我汝等に例を示せり此は我が汝等になしゝ如く汝等にもなさしめん爲なり」と、羅馬書九章三節「若し我兄弟わが骨肉の爲にならんには或はキリストより絕れ沈淪に至らんも亦わが願なり」の二個所には、血を以て筋の引いてあつたのを見た、之は何のつもりであつたか、生命がけでの實行の決心を示したものである。

第三に基督に依て何を與へられるか。彼は力を與へて下さる御方である。志は高いが、力が足りない。勉學中の男女が誘惑に陷り易い。然し神は之に

打勝つ力を與へ給ふのである。消極的には我々を誘惑より逃れしめ、積極的には基督の模範を行ふ力を與へらるゝのである。

先年米國に行つた時、ニューヨークの或市街を通りかゝつた。其所に一つの銅像が立つて居るのに氣付いた。よく見ると、それはワシントンの演説姿か何かで堂々たるものである。其後に立派な建物があつてそれの壁に一枚の銅板が嵌つて居た。何かと思つて見ると、ワシントンが木の下に跪いて、祈つて居る姿であつた。彼の強い力は彼の祈から出て居たのである。

ゴルドン將軍がアフリカ遠征中、毎朝彼の天幕の前にハンカチの下る時刻がある。部下の者はそれを見ると「將軍が神樣と話をする時が來た」と云つたさうである。彼の力も亦同じ源から出て來て居る。

石井十次氏は空拳を以て斯の孤兒院を設立した。其秘訣は何處にあつたか。彼の部屋の内に半疊程疊が早くすりきれて終う場所がある。誰も其理由を知らなかつた。けれど其所は彼が、孤兒の爲、世の貧しき者、惱めの者の爲、祈り抜いた場所であつた。神の手を動かす祈禱は、實に斯る底の祈禱である。諸君は此經驗を有して居らるゝか。

然れども聖靈なんぢ等に臨むに因て後汝等能力を受けエルサレムユダヤ全國サマリアおよび地の極まで我證人となるべし(行傳一章八節)

年若きものも疲れて倦み壯んなるものも衰へおとろう。然はあれどエホバを待望むものは新なる力をえん。又鷲の如く翼をはりてのぼらん、走れども疲れず歩めども倦ざるべし(以賽亞四十章三十節)

此祈禱會で諸君と共に此力を得る事が出來たならば此上もない幸福である。之によりて國民の幸福、人類の福祉は如何許りか增加へらるゝ事であらう。

改革的運動

アキスリング博士

今から卅一年前、米國ウヰリアムス大學の學生の

間に、僅か七名程より成る小團體が組織せられた。其目的とする所は何であつたか。卽ち彼等は、米國學生全體の間に、傳道の精神、奉仕の精神、獻身犧牲の精神の缺乏せる事を嘆き、大なる覺醒の起らん事を祈る爲に集つたのである。

彼等は雪の朝も、風の日も、同大學構内の或所に集つて、熱烈な祈會を開いた。終に彼等の熱心なる祈禱は天を動かし地を動かし、日ならずして全校に盛んなる傳道の精神が燃え立つに至つたのである。

或日の事、同校の學生が講堂に集り祈禱會を開いた。默禱が二時間餘續いた。其時集つて居た學生に聖靈降り、彼等は天來の力に充されたのである。而して其處に居た者は一人殘らず、其時以來傳道に一身を捧ぐるに至つた。此時組織せられたのが、卽ち學生篤志傳道團體であつて、爾來今日に至る迄、此團體の中から一萬人以上の者が、基督のため、人類のため、國の敎化のため、奉仕的人生を送らんため身を捧げて居る。其中八千百四十名は住み慣れた家親しき友を離れ、外國の地に往いて福音の爲働きつゝあるのである。

實に此篤志傳道團體は、米國學生の間に一新紀元を開きしと同時に、世界各國の傳道のために、一新時代をも造り、終に歐洲各國にも此精神は及び、支那に於ても同樣の運動を見るに至つたのである。

然るに五大國の中、一人我が日本のみは、未だ斯くの如き團體一も組織されて居らぬのである。此國に於て、基督敎が勝利の旗を飜し得ない理由の一ば慥に此所にあると思ふ。收穫物は田に色づいて居る然し刈人は少い。是は實に精神界の危期といふべき狀態ではないか。殊に學生の多くが、徒らに物慾に驅られ、實業界に走る者は無數であるが、基督のため、日本國敎化のため、身を獻ずる者は實に寥々たる有樣である。此際信徒學生の間に、ウヰリアムス大學に於けるが如き團體起り多くの學生の覺醒の源とならん事は、余の衷心の祈願である。

願はくば、多くの學生が是が爲に熱烈に祈り、日

本國學生の間に、改革的運動を始められん事を切に祈る次第である。

恥晒しにあらず神の榮の爲

河井道子

今から十三年前、明治四十年に此場所で萬國學生同盟會大會が開かれ、委員長フリース氏、總主事モット博士、女子部主事ラウス氏等が此講壇に立たれた事を記憶さるゝ方もありませう。今日此處にお集りの方々の多くは、まだ小學校か中學校に御通ひの頃であつたかもしれません。當時女子青年會はやつと組織された許りでありました。

其時から今日に至る迄、男女の基督者學生が共に一堂に會した事は一度もありませんでしたが、今日祈會といふ目的の下に、斯く聯合の集會が催されましたのは、眞に喜ばしい事であります。

いろ〳〵の問題がやかましく論ぜらるゝ時代になりました、然し婦人問題にしろ、勞働問題にしろ、之が眞の解決は、眞心から神を畏敬し、彼に仕へる精神に充された男女によつてなされなければならぬ事であると信じます。

日本の女が海外にあつて爲しつゝある面汚しと云はるゝ行爲、之は決して、唯女のみの責任ではありません。何れの國にも惡い男女があつて國の恥晒しをして居ります。けれど他國には同時に善良な男女が海外に出て、多くの美はしい働をして居るのであります。然るに我國の場合は、唯に醜業婦といふやうな人々が、日本の恥を海外に晒して居る許りでなく、高等教育をうけた實業家、外交官といふ人達の中にも亦、國の名譽となるやうな事をして居る者は少ないのであります。

先程のアキスリング先生の御話にございましたウキリアムス大學の事は、今から三十一年前の事であつて、其後今日に至る迄八千百四十名の男女が、獻身して、外國傳道に干與つて居るといふ事でありま

す。此處に萬國學生大會が開催されましてから十年後の今日、何人の青年男女が奮起して、身を精神界の働の爲投じて居るでありませうか。どうか神の爲己れを捨つる事に依つて、自らを生かす男女が、今日お集りの方々の中から多く出ん事を願ます。世界中に恥晒しでなく、世界中に神の名を榮め得る人々の立たれん事を、切望して止みません。そして其中に婦人も亦加へられん事を、切に希望する次第であります。

▽信州上田　基督教女子青年會より（上田梅花幼稚園内）

目醒ましき御活動の御様子は毎月の女子青年界誌上にて又は折々の新聞紙上にて拜見致し、當地會員一同も何かしら主の御用の爲働き度いとは存じて居りますが、何しろ昨年の十月に生れ出た此會、十二月に音樂會とバザーとを開催して純益の百圓をシベリアに送りました位が大出來でございます。

目下會員は僅二十餘名に過ぎませんが、大半は今迄外出も餘りされなかつた、良家の子女である事を感謝致して居ります。毎月二回の例會を開き其都度馬可傳の研究を致して居ります。其他會毎に西洋料理、子供洋服、編物などをミスホールトによつて教へられて居ります。少數の會員ながら一同會の事業に興味を有し、其發展を期して居りますから御喜び下さいませどうぞ此小さな會の爲お祈り下さい。

▽宮城女學校青年會より

大正九年度役員左の如く改選いたし候。會長條文江、副會長中村きく代、書記小館赤子、集會員増子わくり、岩間よし、會計畠山千代、渡邊三千代、片桐きよ、販賣部高久きく、佐藤あい、仕事部阿部エイ、大場ミエ、渡邊あや、永島和子、土井照。

先月廿九日學生祈禱日には吉川起行氏を招待いたし十分に靈の糧を與へられ一同恵に充されたる祈禱會を開き候。三月十二日慈善音樂會開催の事に決し滿備全く整ひ、收入豫算を立て其三分一を當會の基本金となし、殘金を本部、東北學院建築費、仙臺育兒院等へ寄附いたす事に計畫致し候處、ヴオンカルト先生の御永眠につき擧行中止と相成候。之は本會にとりて大打撃に候ひしも、先生の御永眠により各自の靈の上に大なる賜物を與へられ生徒一同亡先生の美徳を慕ひ高き人格を學ばんと努め居候。今後益會員協力して各自の最善を盡して働く事に心懸居候

年をおとりでない

私の心よ、決して年をおとりでない！
私の髪は白くなり、私の血液は冷えて、
私の能力は一つ一つ去つていつても、
青春は微笑んで私の心に宿つてゐる。

老の坂を下りてゆく？　否、否、
私は、上へ上へと忍耐ぶかく登つていくのだ。
私は上の空が輝やかになつてくるのを見守りつゝ
いよ／＼妙な、いよ／＼純潔な空氣を吸ふ。

途すがら小さな仕事が私に與へられる、
一杯の冷たい水をあたへることや、
心からの鼓舞の言葉をはなすことや、
寂しい魂に、神が近くに被在るとつげる事など。

私の心よ高く鳴れ、年をおとりでない！
その役目をすつかり果したとき、
なほも働きつゝ、愛しつゝ、
私は跪いて聖父の御旨を待たう。

M・M譯

聖フランシスと聖クララ

オンブリアの野に咲ける二つの靈の花

小出正吾

今から凡そ七百年前、丁度日本に法然上人が出現して隠遁と秘法の高踏的哲學から佛教を解放し、人間生活の正しい歩を運ばうとした時分、伊太利のアシジの町に、神の歌人として花咲き出でた愛の行者が、我等の懐しき聖フランシスであります。

聖フランシスの生涯を辿る者は、彼の温い光の流れの中に、聖クララの心の輝きを見失ふことは能きないのであります。まして聖女クララの一生を偲ぶ者が、如何して彼女の背後に輝くアシジの聖者の靈を感ぜずに居られませう。彼等は一度此の世の華麗な生活に死して既にオンブリアの野の土の中に埋められ、そして貴くもユダヤの野邊に湧き給ひし永への主の流に會ひ、夢より醒めし如くに靈の世界に咲き出でた純潔な野の花です。童女クララは自分のことを「兄弟フランシスの草」と呼ぶのが好きであつたと傳へられて居ります。この呼び方が本當に良くクララ自身の心持ちを物語つて居ると思ひます。彼女は全く兄弟なるフランシスの手によつて培はれる貧しき草の一つと感じて居たことでありませう。けれども後世の人々は彼女こそは我等が「聖フランシス派の花」であると感じたのであります。そして七百年を過ぎた今日ですらも彼女の住みし跡を訪れる者は、不思議と清淨に心にしみ込むこの花の薫を感ずるのであります。

香すみてきよらにひゞく鐘の音は
ひじりクララが心なりけり

○

なきがらの香りし跡は年經ても
殘んのかほり心にぞしむ

○

香りみち光りしづけきこの園に
ひじりの尼の姿しのばる

○

碧空にひゞきも亘る鐘の音は
クララが淸きこゑとこそきけ

此は聖ダミアノ僧院にクララの跡を訪れた時、姉崎先生の誦ぜられた二つ三つです。

聖者なるフランシスは自然に對して特別な同感力を有つて居ました。彼の愛と讃美とは光の雨の樣に兄妹なる萬象の一つ〳〵に降りそゝいだのです。例へばベヴニアへの途上、糸杉の下に集まつて居た小鳥達に對つて「我が妹なる小鳥達よ。み惠を忘れざれ。而て常に神を讃えんことをつとめとせよ」と說敎をしました。大空を仰げばおゝ兄弟太陽よと呼びかけ、夕べ來ればおゝ姉妹月よと話しかけました。ポルチウンクラの橄欖の木蔭では「神の讃美を歌つて御覽。妹よ。蟬よ。」と呼びかけました。姉妹なる蟬はフランシスが止めよと言ふまで歌つて居たのです。斯樣な澄める美しき歡の心より、彼は園丁に命じて兄弟等(敎團員等)にシャロンの野の白百合を思出さしめる爲、花床を作らしめたのです。無所有の德をたゝえ、斯程迄に淸貧を愛し盡したフランシスが、自分の僧院で許した唯一の贅澤はと言へば勝手用の蔬菜や藥草の他に地面の一隅を耕して、姉妹なる野の花の爲に處を備へることでありました。僞りのない單純な愛は隔てない人間の交りを作ります。こんな工合にフランシスの心から溢れた歡喜は彼に來る人々の心を輝かしめ焔やさしめ躍らしめたのです。彼の弟子の一人で彼の最初の記述者なるチエラノのトマスは申して居ります。「フランシスはこの處を流れゆく流となりて人々の心の園を潤ほしぬ。されば彼等は皆まことの德に花咲き出でたり。」

この貴い流を汲んで花咲き出でた靈の中で、中にも美はしい靈の花は童女クララの生涯です。が私にはどうもフランシス自身がナザレ人の涙によつて培はれた心の花の樣な氣がいたします。ですからオリーブの綠によつて蔽ふはれたオンブリアの野原には今も深紅なけしの花や、星の樣なマルゲリテが咲き亂れて居るさうですが、其處に咲き出でた二つの心の花も、クリストの御言葉の傳へられる限り人々の心から萎ぼむことはないでありませう。

社會組織の無音の改造運動は、中世紀のアシジの市に着實に實行されました。先驅者フランシスの生涯は、よし悲劇に終りましたにしろ、又クララの祈りは此世で彼女に薄く酬ひられましたにしろ、彼等の單純な胸の歌、愛の歩みはやがて社會救濟の最後の港として見出されずには居ないでせう。

ですから、此等の花達が如何にして芽生え出でしか、そして咲き出でる迄に如何なる苦しみを味はひしか、而して彼等が神の園に咲き出でしことによつて、如何なる祝福を享けしかについて靜かに考へ、私達も各々の心の弦をナザレの主を指揮者とする靈の奥の愛の交響樂に合はせなければならないのです。

・　・　・　・

野末に咲いた小さき花に對つて、お前はどうして咲き出でたかと質ねる人がありませうか。もしあるとしても、小さき花は靜かな小川の歌と、歡ばしい太陽の光に恍惚と心を傾けて居る許りでせう。詩篇の作者は歌ひました。

惡きものゝ謀略にあゆまず、つみびとの途にたゝず、嘲けるものゝ座にすわらぬ者はさいはひなり。かゝる人はエホバの法をよろこびて日も夜もこれをおもふ。かゝる人は水流のほとりにうゑし樹の期にいたりて實をむすび葉もまた凋まざるごとく、その作ところ皆さかえん。

斯樣に流れのほとりに育てられ、エホバによつて滿たされたのがクララの生命の花であります。

Clara(今の伊太利語ではChiara)は一一九四年の多分七月十一日、アシジの貴族シフィ家に生れました

彼女の父ファヴォリノ、ディシフィはサッソ・ロッソの伯爵と言はれ、アシジでは最も高貴な家の一つでありました。彼はスバシオ山の一角に城を有つて居ましたが、冬にはアシジの屋敷へ住まつたのでありました。今聖クララ尼院の下に遺つて居る石垣は、その屋敷の跡だと傳へられて居ります。

　クララの母はステルペトの貴族フィウミ家から來たオルトラナでありました。ファヴォリノもオルトラナも善良な基督者でありました。殊に母オルトラナは幼い時から篤い信仰を有つて居りまして、ローマやパリや聖地へ迄も、危險の多い順禮の旅をした位でありました。クララが生れる前にオルトラナはお祈りをして居ましたところが、神の御聲が聞えて彼女の生む子はやがて全世界の爲に光となるべきことを約束されたと言ひ傳へられて居ります。そしてやがて生れた子は洗禮と共にクララ（輝くもの或は譽ある者）と名づけられたのでありました。

　かう言ふ豊かな城の内で、稚い時から神と物語りをすることの出來た少女クララの心は、不思議にも天の方へ許り向つて眞直に伸びて行くのでありました。其時分盛に汎讀されたものは、昔の沙漠の禁欲者たちの列傳 Vitae Patrum でありましたが、あの柱行者達の物語などを、クララも幼心に一生懸命愛讀したものと思はれます。幼い彼女は馬の毛で織つた贖罪の衣を自ら着けて、私かに自身を苛んだり又フェルメの隱者パウロの樣に毎日數多い祈りを唱へて、其數を小石によつて數へたりしました。この小さい神の子供には、祈りと贖罪に熱心なマリア的性格の一面があるとともに、又一方彼女は甚だ施しをすることを好み、自らは伯爵の財産をゆづらるべき乙女でありながら、貧しい人々の群、寂しい病める人々などを世話をして歩いて、活動的なマルタ的な生活をも慾つたのでありました。

　かくて健かに美はしく少女クララは生ひ立ちました。彼女の美しい姿が町を行く時、アシジの人々は「光の髪クララ！クララの光の髪」と囁き合ふのであ

りました。春の日光を求めてグン〳〵伸びて行く若草の芽の樣に、乙女の心の奧に芽生えた信仰も、神を憧れて奔流の如く突き進む時が來ます。神秘な靈の世界、クララの乙女心も今は生命をかけて其處をあへぎ求めたのであります。

十五歲の春が來ました。すると彼女の周圍からは最早や樣々な難しい問題が、息もつまる樣な力を以て押し寄せて來るのでありました。上品な端麗なモントルソリ家のパオロだの、男性的な高貴なオッタビヤアナ・フオルテブラッチヨなどの貴公子達が、求婚者として光のクララの前に立つたのであります そして其等の青年の中の一人は、少からず兩親の意にかなひましたが、父母がこの問題に就いて彼女に語つて聞かせた時、可愛いクララの唇からは思ひもよらない强硬な拒絕が言ひ放たれたのでありました

幼くはありましたが、クララの眼の前には旣に確然として遙かな輝きの門が見えたのであります。恩愛の父母が悅びと共に示して下された無事な華麗な此の世の大路に比ぶれば、彼處に至る途は如何に嶮はしく、如何に狹く、如何に困難な荊棘の路であるかゞクララには明つきり判つて居りました。そして其處を唯一人になつても歩いて行くのが、本當の自分の生涯である樣に彼女には思はれたのであります 現在でもよくあります樣に妥協的信仰生活――此の世の日常生活に善良な人達として日々を營めばよいと謂ふ樣な、當らず觸らずの微溫的基督者生活――が彼等の宗敎の目的でありましたので、父母にとつてはクララの信仰は餘りに宗敎の範圍を越え過ぎて居りました。彼等は「幼いくせに宗敎臭さ過ぎる少女」として眉をひそめたことでありませう。けれどもクララにとつては問題は餘りに眞劍でありました 彼女はたとへ未だ十五歲の乙女でありましたとは言へ、「否」と言ふべき時に「否」と言ひ切り得る力が有りました。其が彼女の心に溢れて居たナザレ人の聲なのです。「爾等凡て我を離れて何等をも爲すこと能はず」であります。主の御旨ならざるものには、何

物にも屈從しないところの權威が柔しいクララの心根に備へられて居たのであります。彼女の胸の弦は愛の交響樂に高鳴りました。彼女の手と足は純愛の生活に跳りました。併し其等は假令懷しい母の言葉であらうとも、不自然な妥協、非福音的な盲從の爲めには鐵扉の如くに閉ざゝれたのであります。强ひられ様とする結婚に對して、兎も角く徹底的な不拔の主義を以て當つた十五歲のクララに見られる確信の强みが、彼女の謙つた生涯を一貫して、やがてサンダミアノの僧院から永の故鄕へ歸る時迄に至つて居ります。そして彼女の信念の一本氣が、先驅者聖フランシスの絕望と煩悶を屢々救ひ、フランシス敎團の危機をあまたたび助けたのでありました。內に外に思へばクララの一生は靈的爭鬪史であります。そしてまだうら若い乙女の頃から、最早この鬪ひの第一頁は刻りつけ始められたのでありました。

聖純な靈の蕾が未だ綻びぬうちに、様々な黑い鳥が來て苛みます。さう云ふ時に、蕾は唯暖い空よりの祝福されたる日光を待つのです。そして彼女は咲き出づるのです。うなだれた靈は跳躍をするのです。嗟嘆は法悅となるのです。紲を斷たれた鷲の様に、無限の天涯をさしてかけり去るのです。

この時、深い煩えに閉ざゝれた少女クララの心にそゝがれた三月の太陽の如き慈悲光は、丁度今や同じ都の巷に出現した、灰色の上衣一枚しか有たぬ若き修道僧フランシスの心であつたのです。

ベルナールド家の長子、貴公子等の盟主なりしフランシスが、華々しい遊蕩生活から一轉して、無所有の「小さき兄弟」、乞食と癩病者の友なる「貧しき僕」フランシスとして、街頭に現はれたことが如何なる希望と法悅とを以て、クララの胸に響いたことでありませう。

丁度忘れられた音符の讀み方が發見されて行く機な工合に、アシジの聖者の生涯の譜も學者の研究によつて段々と明かに奏でられて參ります。今世界の改造期に當つて、七百年の昔の社會改造實行者達の心に觸れるのは、祝福されたることであると思ひます。あのダンテが「圓滿の一生、天の上にも高きいさほし」と歌つた聖クララが、家を出でフランシス敎團の最初の姉妹となつたことに就いては、この次に考へさせて戴きます。

（續きます）

かたみのしをり

大橋房子

かたみのしをり――それは私のお母さんが私に殘した大事な記念品です。白いカードの地にポツ〱と規則的にあけられた小い穴から穴へと走つた空色の絹糸が、聖書の一句を美しく浮き出さして居ります。私が數年前にふとしたことから、長い間しまひ忘れてゐた此しをりを見つけた時には、丁度カードの裏が出て居たので、たゞつやゝかな絹絲が縱横十文字にこんがらかつて居るばかりで、何が何だかさつぱり判りませんでしたが、ふと表をかへして見た私は、其所に初めて「神は愛なり」といふ聖句が鮮かに縫ひ出されてあるのを見て、いふべからざる感慨に打たれたのであります。なぜなら、此の深遠な眞理は、もつれた裏面の絲によつて描き出されてゐたのですから。――

こんな事をモール監督が「クリストと悲哀」の中に云つて居ります。不可解なこの世にポツンと生み落された私共の故知れぬなやみも、意地惡な運命の女神のいたづらとしか思へぬ人間社會の悲劇の數々も、よく目を止めて見れば皆鮮かな縫取の裏面であつて、――或は美しい表面の縫模樣を描き出す爲の勞苦であつて、表を返して見る時には、愛なる神の御顔を明かに見る事が出來ると聞いてみれば、何となく辛棒が出來るやうな氣がします。いゝえ、表を返して見ないでも、澄んだ智慧の眼をもつた賢者は凡人が暴君に强ひられて、餘儀なく無意味にして居る苦しい仕事の背後に、美しい字と絹とを見て居る

のでせう。そして自分のさす一針が、着々描いてゆくものを私に透して見て微笑んでゐるのでせう。

私はこの話を思ひ出す毎に、イエスの十字架とその復活とを聯想しないでは居られません。もしあのいたましい十字架をしをりの裏と見れば、その十字架が他面に縫ひ出したものがあの詩のやうに美しい復活の朝ではなかつたでせうか。「我が爲すこと爾今知らず後之れを知るべし」（ヨハネ一三〇七）と仰せられたイエスは、しをりの表にやがて織り出さるべき生きた美しい模樣を、明かに豫知して居られたからこそ、ひとつびとつの苦い杯を雄々しく飲みほすことが出來たのではありますまいか。

此世の生活は苦しい。深酷な悲哀にしみて居る。私達はしをりの他面を透し見るの明を缺いてゐる爲に、いくら悶えても考へても苦しい生の終局目的を知る事が出來ない。しかし、あの華麗な模樣と色彩とを持つたタペストリーの織工が出來上るまで表面を見ずに、色樣々な絲を布目に組んで行くやうに私達の苦しい勞作の背後に目に見えぬ美の織り出されつゝあることを知る時、私は十字架の苦しみを進んで脊負はうとした主の聖徒等の心が少しはうかゞはれるやうに思はれます。（一九二〇、三、一一、夜）

あゝ主よ汝の爲に、汝と偕に、汝に在て之を用ゆる外は此後健康も生命も望ましめ給ふ勿れ。われにとりて、何が善きかは汝のみ之を知り給ふ。然ば汝が最も善と見給ふ事をなし給へ、與ふるも奪ふも、聖旨のまゝになしわが意志と聖旨とをひとつになし給へ。

パスカル

南米にある同胞姉妹の爲に

夫人は永くブラジルに住居せられ彼の地日本移民については深い同情と理解とを有つて居られる方であります。

永島博子夫人談

ブラジルと申しますと御承知の通り世界一のコーヒー栽培地でありますから、其所に世界各國から集つて來る勞働者は皆此栽培の爲に働いて居ります。ブラジル全土の大きさは實に日本の十三四倍もありまして私の居りましたサンポーロ市は東京の四分ノ一位でございませう。其所に集つて居る移民の大多數は伊太利人で、サンボウロ州丈にでも凡四十萬人位も居るでせう。此他葡萄牙人、スペイン人等も可成多く居ります。數に於ては伊太利人が一番です。日本人は三萬人位と記憶いたして居ります。

何所の國でも移民を送る時には、それと共に必ず宗教家、教育家、醫師と此三方面の人々を送つて參ります。フランスの如きは耕地（コーヒー畑）の中央に會堂を建て、牧師は常に勞働者を愛を以て勞り勵ましながら、仕事をさせて居ります。けれど日本では此三萬人の同胞に對して、學校もなければ教會もなく、病院一つありません。其上日本の移民は他國の自由移民と違ひ、洲政府の補助を受けた契約移民でありますから、耕主と呼ばれて居る自分等の雇主に、幾分か奴隷的の待遇を受けて無法な束縛の下に働かなければならないのです。之等我國移民の中にはよく逃亡を企てるものがあります。

彼等は常にこんな事を語り合つて居ります。「こんなに働いたら日本に居ても金が殘つて仕方が無いに

相違ない」等と。彼等は正午一時間の休を除いて、十時間、十一時間位の間は耕地に出でゝ全く牛馬の如く過激な勞働をして居りますが、それに對する報酬等は實に細微なもので言葉の外でございます。

移民會社の規定としては渡航者は夫婦者であつて勞働に堪へ得る年輩の子供を伴ふ事、が條件とされて居ります。それ故、豐饒な南米の地を夢みて、一稼ぎしやうと思ひ立つた若者は、急ごしらへの一家族を構成しなければなりませんので、之には隨分不自然な方法が講じられ又それにともなふいろ〳〵の悲劇が起るのも、もつともな事だと思はれます。

とにかく寄せ集めの一家族を作つて、いざ渡つて見ると、あちらの生活には想像に反する事が隨分多く樣々な困難は若い乙女等に耐へられぬまでに打寄せて參ります。勿論同じ洋行にしても北米に行くのとは全く違つて居て、伯國に來て、スクールボーイをしながら勉强しやうとしたり、働の割合に賃金の多い仕事を夢みたりして居ますと、それは全く裏切られて吃驚しなければならないのです。

日本から行く契約移民は、少くとも一年半の契約期間だけを、耕主から課せられた耕地の働に否でも諾でも從事しなければなりません。互の間に言語の通じない事から意志の疎通が不充分であつたり、感情上の衝突があつたり、豫想がはづれた爲に失望と自暴自棄に陷つたりして、隨分悲慘な結果を見る事があります。殊に前申したやうに、日本移民の爲には、之等の失望や煩悶を引受けて、慰安を與へ、奮起を促し、精神的に力づける機關が一もありませんので、彼等は成行の儘に、ずん〳〵放縱な生活に陷つて終ひます。私はあちらに居りました間日本人の無賴漢を一番怖ろしく思ひました。それ程或者は荒んで終つて居るのです。

殊に一番氣の毒なのは、加入者と呼ばれて居る、前申上げした俄ごしらへの家族の中に、養子又は養女として加へられた若い子供達です。多分始終洋服でも着、洋館に住ひ、洋食を食べるハイカラな暮し

を想像し、又其樣に吹聽されて、親や兄弟から離れ一人他人の中に入り渡米して見ますとさあその事實は全く豫想に反して居るのを知つて、自分の生活に不安や不滿を感じ初め、殊に之は女の兒に來る誘惑ですが、惡い商賣をするものゝ甘言に乘せられて、取り返しのつかぬ羽目に陷つて終ふのです。

他國の者は決して墮落をしない、又惡い商賣をして居るものはない、と申すのではありません。けれども、他の國では、救濟と制裁とがよく計られて居りますが、日本は南米に移民を送り初めてから、殆ど二十年後の今日、尙何等斯樣な方面の企が出來て居ないのです。若し殖民事業といふ事が國是であるとすれば、彼等の精神的向上發展をも同時に計るべきではありませんか。人口過重故、唯國外に人民を送り出すといふだけでは、眞に片手落不徹底極まる法策と申さなければならないと思ひます。サンボウロ市に在住して居ります總ての外國人は、皆一樣にが もつと之等の同胞のために盡さなければならないと云ふ事を切に叫んで居ります。私も此の私等の女子青年會等が彼の國の方まで力強く手を延ばして活動されるなら、彼等氣の毒な數萬の同胞の靈は必ず救はれると確信致します。若し此方面に適當な方法が講じられさへすれば此小い國に斯樣に澤山の人を置くよりも、十萬や、二十萬の日本人が往つても、何所に來たか、と思ふやうな廣々とした地に移住して、大きな自然に接しながら生活する事は、どれ程愉快な事であるか知れません。實際氣候はよし土地は豐饒であり、從つて食物は潤澤であり、年中樹々は靑々と茂つて美しい草花の斷へ間がない斯の國は、ほんとに人をのび〳〵と生活させる事が出來る所です。森林と申ても、とても箱根や木曾等は及びもつきません。自動車で何哩往つても往つても果がないやうな大森林で、其中には普通日本の中流家屋位の大木が茂り合つて居ます。それですから、其所を伐り開かうとする時には、片端から火をつけて木を燒いて終ひます。惜しいやうですが、他に方法

がありません。とにかく豊饒な未開の土地が開拓を待つて居る姿で殘されて居ります。

けれど繰り返すやうですが、唯人を移送するだけで、其所に往つてほんとに精神的にもよく生きられるやうな道が講じられなければ、如何に豊かな自然の恩澤も、如何に多くの同胞の奮發も、それは現在より、もつと／＼、悲慘な結果を來すに至るだけであると思ひます。

南米のずつと端の、丁度サンポーロから四日路程の所に、アルゼンチインの首府ヴイノスアイルといふ都があります。其所にはアメリカ女子青年會から派遣された三人の幹事達が、盛な活動をして居られます。

私が其所に旅行いたしました序に、スコットランド人の經營して居る製靴工場を參觀いたしました。そこには三百人程の日本婦人が働いて居りました、其他の所にも日本人がかなり多く働いて居ります。青年會を御訪ねしました時、幹事のお一人が、非常な熱心を持つて非常に期待しつゝ、河井先生並に日本の女子青年會員の諸姉に言傳てくれるやうにと、くれ／＼も仰有つた事は、どうか此ヴイノスアイルに居る日本婦人の爲に、女子青年會が何か働を初めて下さるやうに、といふ事でした。

同胞婦人の向上と慰安との爲に、私も皆様に切に蹶起して戴き度く望んで居ります。殊に之は信仰と愛とに依つて、爲すのでなければ、到底不可能な事であると思ひます。斯地の婦人達も、自分では、はつきり意識する事の出來ない何物かを求め、憧れ、渇いて居るのは事實です。斯様な殖民地に生活する者には、到底内地に居る者の察する事の出來ない淋しさがあるもので、その遣瀬なきを誰か頼りになつてくれる人に打明け度いといふ思が、皆の心に一つぱいになつて居ります。南米大陸が開拓者を待つて居ると同様に、其所に住んで居る人達は心の友を求めて居るのです。

エレン・ワトソン

──ワトソン傳に據る──

森田松榮

エレンは一八五六年二月廿六日、英京ロンドンにワトソン家の長女として生れた。幼時に就ての細かい記錄はないが、稚い時から理解力は優れて居り、思想も進んで居たが、同時に、子供らしい信賴と單純とを備てをり、また、善惡については分別がさとく、無私の愛が深く、他人に對するやさしいおもひやりに富んでゐたと兩親は語つて居る。

エレンは多勢の弟妹の長姉として、なか〳〵用務の多い身であつたが、いつもよく其義務をつくし、後年、研究に深い興味を持つた時も、愛し得る友を得た時も、彼女の家庭に對する愛は少しも變らず、如何なる境遇にあつても彼女は少しも變らない娘であり、また姉であつた。

エレンの父は大學教授であつたが、後その職を辭して、ロンドンを去り、リーデングといふ所に、私立の學校を創立した。そしてエレンは九歳で初めてその地の女子小學校へ入つたのであるが、この時からもう彼女は嶄然頭角をあらはした。

彼女は十五歳の時、ケムブリッヂへ行つて普通學の試驗を受けたが、フランス語の成績は優等であつた。彼女の得意な學課は數學であつたが、彼女はそれを專門の學とする前に、文學を學んだ。彼女の豐富な想像力と高い道念とは交友にふかい印象を與へてゐた。

やがて彼はロンドンの或專門學校へ入つた。教師はエレンの明晰な頭腦を賞した。彼女は内氣の、引

込がちの學生であつたが、深厚な同情と高尚な心念とは、同窓の敬慕する所であつた。彼女は此校で特待生になつた。

その後彼女は家へ歸つて、數年の間家事にたづさはつてゐた。然しこの間に、ロンドンへ數ケ月行つて、大學の受驗準備をした。エレンは、自然哲學、ギリシヤ語、ラテン語を殆ど獨學で修得したのであるが、ケンブリッヂ大學の試驗には第二番の成績で合格した。彼女は此時十九歳になつた許りであつた此學校でも彼女は特待生となつた。

學術の花、妍をきそふケムブリッヂの學園に、あく迄その香をたづねやうとしてゐたエレンは、殆ど獨學でかち獲たその特待生の地位をも棄てゝ、家に歸つて手傳をしなければならなくなつた。かくて昨日迄自由に眞理の園を逍遙してゐた才媛は、けふは世話のやける小さな弟妹の、絕間のない用事に忙しく一日をくらす姉さんとなつた。然し彼女は學術に對して專心一意であつたやうに、姉としての役目を盡すにも間然する所がなかつた。そしてどんな雜事も、學問に對する彼女の愛を奪ふことはできなかつた。彼女は、夜は小い弟妹達と同時刻に就床したが朝は四時に起きて、小い人たちのまだ起きないうちに、勉強することにきめ、數學と自然神學とを研究して二年といふもの、家事と勉學とを並行させて怠らなかつた。

エレンは、それまでは至つて健康であつたが、廿歳の冬、ひどい感冒にかゝつたのがもとで、肺に思はしくない徵候が見えたので、早速轉地をした。轉地の效は目に見えてよかつたので、やがて再び家に歸り健康の回復した事をよろこびながら、もとのやうに家事の手傳をするかたはら、數學と科學との研究をつゞけてゐた。

彼女は專心獨學しつゞけて、もうこれ以上どうしても師につかなければならないといふ所まで來て了つた。それで彼女はまだ會つた事のない一大學教授に、事情を書き送つて、物理學研究の志をのべ、

かつ、指導を乞ふたところが、その教授は直ちに之を快諾したばかりでなく其後いつもエレンを鼓舞し奨勵したのであつた。

彼女はまた大學へ入つた。此頃のエレンは、科學萬能と信じ切つてゐたので、

「私は宗教なんか要りません、科學は私をすつかり滿足させてくれます。」

といつてゐた、又友人への手紙にも

「私は信仰の必要を認めてゐません。私は科學をやりとほさうと決心してゐます。この爲には困難にも堪えますし、幸福も棄てます。他人への義務は怠りますまい。」

といつてゐますが、ほどなく、同じ友人へ宛てた手紙には

「今私は、私自身にも、私の生活にも滿足してはゐません。私はもつと充實した生活が欲しいのです………何が不滿足だといつて、高尚な生活を願ひながら、毎日之に失敗する感じに越すものはありません。あなたの仰しやつたやうに、純な空氣の中へ上るのは、實際難かしうございますね、一意專心の仕事に對する高尚な目的がなかつたならば、理想に近づくことだつて、出來さうもないと思へますもの。」

（未完）

主イエスに仕へるためにもつと勤勉にもつと用意周到に、もつと熱心であらねばならぬ。生ける神に餘りものを捧げて祝福の來やう筈がない。警戒すべきである。神に仕へる精神と、社會に奉仕する精神と、自己の事業につくす精神とは常に調和して行かねばならぬのである。此調和を缺いて居る現代は實に禍なものである。現代人の不安は卽ち此所から來て居るのである。（ジョージ・ゴルドン博士說敎の一節）

實務につかんとする若き方々に

秋田文子

○

（前略）私事只今三年三ヶ月〇〇銀行に勤務いたし居候。銀行はいと／＼小さきものにて重役から小使給仕まで合せて十人足らず、然も女事務員は私のみにて、最も家庭的に御座候。足掛五ヶ年間一日としていや／＼出勤せし事なきは感謝すべき事に候。人手少き銀行なれば先年佛國々防公債募集せし折などは毎夜十時過ぎ十一時頃退行するが常に候ひき。斯る折は全く五人分位の仕事は充分にて、私は秘書役兼タイピスト兼郵便局員兼書類全部の整理方兼何々と机の上は、電報、英佛文の手紙、表、帳簿、計算書など、うづ高く積るゝ時、唯「神よ之を順序よく間違ひなきやうなさしめてよ」と祈らずには居られず人の顔色、鼻息を窺はず、自己を忘れ誠心誠意仕事の人となり、遅くなりても必ず其日の事は、其日にやり遂げて全部を支配人の許へまとめて持參し、支配人は「貴女の爲た事は讀みなほす必要はない」と申され、ザッと見てはずん／＼サイン濟みになる時、始めて包み切れぬ滿足と愉快とを感じ、のぼせた頰を冷たき風にあて、此喜びを一時も早く母へも分けてと歸宅する味は忘られず候。全く自己を忘れ世を忘れ、仕事に夢中になり、仕遂げし後は常に常に愉快を感じ申候。

次に苦痛と思しき事を申上候へば、家庭的の小銀行にて、皆樣の氣心もよく／＼わかり居る事なれば大した事は無之候へ共、表の原稿、手紙の原稿を下さる方々が、御自身の間違ひを氣づかず、一も二もなくタイピストの不注意として御叱り蒙る時、一言半句も申譯する事をせずして、無言にて御詫のみす

る時、苦痛といへば苦痛に候も、之はタイピスト共通の苦痛に候へば、何とも思はず候。いひわけ、口答等せしあとは、より以上苦痛に候ふべし。唯無言が最良の方法に御座候。人の失策を我身に引受くる時、其時は苦痛なれど後より幾倍かの喜びとなりて歸り來りし例少からず候。

第三に私共にとりての誘惑は、先輩或は友達より會社、役所等に人が入用なれば、誰か紹介方を賴むと依賴されし折、其位置が自分の現今の位置より良く、事務の工合も、俸給の點も、數等優れし折は全く誘惑され候。又友達より貴女の所は、忙しいし俸給も少ないし、發展の見込みがないから、何所そこへいらつしやいと勸めらるゝ時も、ふら〳〵と其の氣になる事も有之候今時の流行には候へ共ベタープレースに轉々し、折角馴れさせて戴きしもとの處の迷惑を考へぬは、全く恥づべき事と存じ候。

タイピストといへば何でもないやうに聞え候も、一本の手紙、一枚の表が其會社銀行を代表して、世界の舞臺に活躍するものなれば、そゝかしく不注意なるは最も嚴しくいましめ度く、些細な事にも責任を重じ度存じ候。出來上りしものは自分の滿足の行く迄よみなほす事、何事も正確に、例へば手紙書類の整理にても人名月日は、何日何時誰にでも明瞭にわかる樣、何日辭職しても、死しても心殘りなきやう、其日の終りを全うする事等は仕事に對して、殊に注意を要する事共と考へ居候。一般男子の中に入つての態度は中々むづかしきものに候。あまり口數きかぬ事肝要にて、口數多きは馬鹿にさるゝもとに候。女なればとて、あまり卑下せぬ事、と申てツンと生意氣に氣取るは最もいとはしう候。しとやかに而も男子と同等の權威を以て仕事につくは最も愉快なるものに候。上役の鼻息を窺ふは、いやしめらるゝもとなれば注意すべく、下のものには全力を注いで深切に、ことに給仕小使等は憐みを以て使ひ、言語動作をはつきりとなす事、言行に不明の處なき時は、如何なる男子も失禮な事はいひ出すものにあら

ざるべしと信じ候。（後略）

○　穴倉節子

健康を重んじ、何か或一つの信念を持ち、可成用事以外には事務中多言せざる事、時間を正確に守る事等は殊に注意いたすべき事共と存じ候。

○　酒井愛子

入社の際は充分に會社の状態を御調べになり、一度入社遊ばされし上は、可成長く御務めの決心と、すべてに勝ち得る忍耐と、余り謙遜過ぎず、むしろ少々高く止る位にて、ディグニティーを或程度迄保たるゝこと共、肝要かと存ぜられ候。

○　倉地初恵

第一に心をしつかりしてお働き下さい。友人には從順に、忍耐して仕事に一生懸命にして下さい。

消息

□矢島楫子氏　矯風會萬國大會に出席の爲め十三日出帆の鹿島丸にて米國經由ロンドンに向はる。

□河井總幹事　豫定の如く渡邊百合子氏と共に三月五日横濱を出帆せらる。三月八日「波高けれど元氣」との無線電報、本部に屆く。

□ミスアダムス　昨年四月來朝せられ以來多くの援助と指導とを我が女子青年會に與へられたる同氏は三月二十日歸米の途につかる

□ミスカフマン　ミスアダムスと同船にて父君御見舞の爲、カナダに向け出發、御歸りは九月頃の由。

□ミスペーヂ　三月上半を關西旅行に費され、京都、大阪、神戸の各市青年會を應援の後、十三日歸京せられたり。

□新渡戸すゞ子氏　二月限り横濱女子青年會を辭職せらる。

□日比忠子氏　新渡戸氏に代り同青年會移民部の働に從事せらる。

□安田そよ子氏　英學塾に學ばれ、しばらく名古屋に教鞭をとられし同氏は日比氏後任として横濱青年會の寄宿舍々監となる。

□袖山愛子氏　十二日平野平助氏と結婚せらる。

□北原延子氏　二月窪村美義氏と華燭の典を擧げらる。

□海老名彈正氏　いよいよ同志社大學總長として就職の事に決す。

□塚原みつ子氏　特別會員として本部に入會されたり。

□加藤高子氏　母堂御見舞の爲三月上旬歸郷數日滯在せられし由。

□ガントレット恒子氏　矢島女史と同伴矯風會大會に出席せらるゝ
同氏は、五月スペインに開催の婦人參政權大會にも出席さるゝ由。

東京青年會（神田北神保町一四 電、九段一六八）

▽學生部及教育部報告及新學期計畫。

二月廿六日英語社交會開催。アキスリング博士の東京市の勞働婦人及其家庭につき有益なる御話あり。

二月廿九日　萬國學生祈禱會美士代町青年會館にて開催され、女子青年會々員百五十名程出席、各自力と勇氣とを與へられ希望に充ちて散會す。

三月九日學生部委員會開催。左の事項を協議す。

（一）學生部の仕事を確實有效にする爲東京市內及近傍の女學校の事情調査の要あり。此調査法の研究。

（二）聖書教案研究委員會の報告。長く聖書の組に居る事の出來ざる人ある爲各教案は十回宛にて終了

イ　初歩の人の爲。キリストの生涯及教訓。
ロ　求道者の爲。キリストの弟子たる人。
ハ　決心者の爲。ヨハネ傳。
ニ　信者の爲。使徒行傳――初代教會の初め。
ホ　同。コリント前後書。
ヘ　同。舊約全書中豫言者の社會に對する主義。
ト　同。新約全書中キリストの社會的主義。
チ　教師の爲。キリスト教根本義。
リ　信仰上の問題。

以上はミスアダムスに御依賴して略完成す。

三月廿二日。英語の組及聖書の組の生徒中、此年卒業する者廿名餘を招待し祝賀兼親睦會を催し、田島進先生に御話を願ふはづなり。

女子青年會の諸組は三月廿日を以て休業とし、新學期は四月十日に始業式を以て開始する筈なり（中西）

▽市部報告。

三月二日市部委員會開催。有職婦人の爲夜間集會を催し、時機に應じて講演會、懇談會、實習會となし依て此種婦人の團體の基礎を確實ならしめんとする議につき協議す。（實習會は簡易和洋料理法及手藝、西洋作法等に關して）

三月六日鐵道從事員相談會開催。クラブを組織的ならしめ其活動の擴張を計らん爲、東京上野萬世鶯谷の各調査係分室より一人宛のクラブ幹事を擧げ、尙クラブ會計として二名、記錄通信書記各一名を選ぶ次會は十三日開催、上記役員共責に任じ準備する事

三月十三日鐵道クラブの會合。來會者四十三名。志

立會長其他合せて五十名。安島姉（鶯谷分室）司會の下に議事に移る。會名（役員附託）會員資格（鐵道從業員なる事）會費會の目的、役員、役員期限等、萬事は議事制度にて議長と呼んで意見を述べ又は其賛否を明になす等、初めての此種の會合に似合ずキビ〳〵と進行し四時に議事終了、ミスアレンのお話ありし後有志のピアノ獨彈及琴三絃の合奏等あり五時食卓につく。食後或は語り或は笑ひ、デッドボールに毬送りにと時の過るを知らず、八時に至り散會す。

●●●●●●●●●

三月十六日有職婦人懇談會。ファイヤープレースを中心として角形に置かれしテーブルに各自の名刺を尋ねて席につく。坂本姉のお心になりし温きスープよりティーに至る迄の間テーブルには時ならぬ話の花咲き賑はしく、最後にミスフリードマンの工場内女工のお話（志立會長通譯）を聞き餘興に入る。秋元氏の獨唱、田中藤本兩氏の合奏ありて後、共に讃美歌を歌ひ九時十分散會す。來會者十二名。會長幹事委員合せて廿五名。（今後の會につき約二十分協議す）（鈴木）

▽職員動靜

□酒井あい子氏　英學塾出身にて多年實業界にあられ經驗多き氏は四月より當會に働かるゝ事となれり

□岡崎小文氏　青山女學院卒業後甲府英和女學校にて教鞭をとられしが四月より當會に赴任の事に決す

□ミスカフマン　父君御病氣の爲廿日出帆のエンプレスオブロシアにて歸國の途につかる。

横濱女子青年會（本町通一丁目）

二月より三月にかけて職員間に少々變動がありました。二年間本會移民部の爲御盡瘁下さいました新渡戸すゞ子姉、御都合上三月より退職され、日比忠子姉其後任となられ、渡航婦人の友となり、元氣に働いて居られます。寄宿舍には女子英學塾に學ばれた安田そよ子姉を迎へ、事務所には金城女學校出身の長谷川よし子姉御出下されました。本會に御出での方々は同姉のニコ〳〵したお顏を御覽の事で御座

いませう。

二月初めより三月中頃迄、本會は新會員募集準備及運動のため、いつもに倍して緊張した氣分の中に居りました。運動期間は二週間、目標は五百名、運動員は一隊八名より成る四隊即ち卅二名で、此等卅二名は神の戰場に向ふべく十分準備せられ用意も整ひて、二月廿一日當市紀念會館に於る大講演會を以て愈々運動を開始いたしました。毎日の成績は本會事務所前のガラス窓に掲げられた統計表及四隊の色(赤青黄水)を代表せる四少女の富士登山のポスターにより毎夕五時に發表し、公衆に注目を與へました斯樣にして開始された運動は、二三日間は非常の勢でしたが、家庭や職務を持たるゝ委員及會員の多くの方々が、殆ど毎夜十時近く迄運動されしに係らず四五日目より勢漸く衰へ來たり、一同は "We are not bound to succeed, but we are bound to stand with the right." を口にして祈り續けました。不思議にも終に神は最後の夜迄に、目的の數を越ゆる事五十一名即ち五百五十一名を與へ給ひ今では殆ど六百名に近き新會員を得ました。只今では之等新會員のために何か爲す所あり度いと計畫中です。

此度の企により、神は本會に多くの人を與へ、又當市々民間に本會を紹介する機會を與へ給ひしのみならず、一同はパジエントより味ひし一致協力の精神を一層强められ、かつ神の爲働く時には凡の苦難も喜に打變はる經驗を與へ給ひました。此等の事の爲に神に深く謝すと同時に、之が爲御祈り下され、又御援助下さいました皆々樣に厚く御禮申上ます。

(横澤氏報)

○○○敎育部。昨秋より初めた夜學部は、日々入學者を與へられ、只今は四組に分れ五十名許りで御座います一日の働の勞をも忘れて、熱心に學ばるゝ姉妹方に度々勵まされます。之等の姉妹と個人的交りを計る爲共に讃美歌をうたひ、又語るやういたして居ります。西洋料理の組に多くの支那女學生を迎へし事と午後の組に平沼縣立高等女學校の生徒を多く與へら

れし事は喜ばしい事の一つで御座います。

移民部。朝九時より殆ど終日渡航婦人の講習にあたつて居ります。出來得べくば個人に接して導きたいと努めて居ります。英語、風俗習慣を傳へる事も必要でありませうが、之等の人々に接して殊に必要と感じます事は、形的教養に先ち、內的教養を與へる事の急務である事であります。それ故聖書を科目に加へました。講習生は現在七名、皆熱心に學んで居ります。行手を知らぬ無垢な田舍出の娘方のために特に祝福を祈つて居ります。

寄宿舍。朝は正七時に一同食堂に集り、各自の席に起立し、讃美禮拜をいたしてから食事をとります。移民部の方など、初めて祈禱を耳にせらるゝ人々の爲に、言葉は最も平易なのを用ゆる事に努めて居ります。司會は私共幹事が交代にいたしますが、其間へ一人づゝミッションスクール出身の方を入れる事にいたして居ります。只今は會社に御働きの方五人學生二人、渡航婦人四人、總數十六人程の家族で御座いますが、移民部の婦人は絕えず人員に增減が御座います。（日比氏報）

京都女子青年會（室町通り武者小路上ル）

二月二十九日萬國學生祈禱日に際し、男子青年會より當會と合催して同日を守りては如何との申出ありしかば、至極結構の事と早速その樣に取計らひ、當會の者の外に、多數の同志社女學校青年會員出席されたり。場所は帝大男子青年會館にて、夜七時より開會、山本牧師並に前日より入洛され居りしペーヂ總幹事の奬勵に引つゞき、多數の祈禱の中に、支那、朝鮮の男女學生諸氏の熱烈なる感話祈禱もありて、神の前に皆一つなるの感をいだき、眞に美はしき會合なりき。

三月は職務上の御都合にて、西野貞子氏御出張かなはず、ために同氏の講話會は休會したり、此月より始めし英語の唱歌組は、十一名にてミセスグラフトン熱心に毎週敎へらる。ペーヂ總幹事は先月末より約二週間滯在され、種々の方面に多大の援助を與へられて歸京されたり。（林秋子氏報）

雑報

○北京大學婦人の爲に解放。今回女子學生八名同大學文科に入學を許可せられ男子と席を並べて聽講し居る由。斯如き事は支那に於ては空前の現象なり。

○職業婦人の爲にアパートメント 日本女子大學櫻楓會のかねてより計畫實現され、職業婦人の爲の住宅建築は内務省より六萬圓の借出をなして工事に着手する由。今秋九月頃には竣功の豫定なりと。

○女子事務員募集。日本勸業銀行にては女子事務員數十名を募集し今年卒業すべき小學生高等女學校生は勿論銀行又は計算事務に經驗ある廿五歳以下の女子を歡迎する由。月收は現在最低廿圓最高百圓を超え成績優良の者には男子と同等の資格を與へ、女子の能力を充分に發揮せしむる方針なりと。

○米國絹業團來る。視察の爲來朝したる同國は三月十二日午後横濱生絲業組合及貿易商組合の歡迎會に列す。當日は舊來の陋習を打破し横濱、本部及東京女子青年會の幹事等接待の任に當れり。

○婦人矯風會大會。全國婦人矯風會大會は四月九日より七日迄横濱市山手町共立女子神學校内に開催され、日本全國の各支部より代表者來會せらる。尙之に先ち二、三日の兩日同市開港紀念會館にて家庭製作品奬勵會と合催のバザーを開かるゝ由。之には矯風會各支部より土地の名產を持寄らるゝとの事。

○萬國日曜學校大會要目。期間第一夜開會式を加へ十日間。用語全部英語を使用し簡單なる邦譯を附す。大會毎日午前九時より正午迄午後七時より九時半迄。幻燈及活動寫眞會毎日午後三時半より五時半迄及七時半より九時半迄。（世界に於ける日曜學校事業の一斑を映寫す。）教育宗教美術展覽會毎日午後二時より五時半迄。其他教育會議、世界日曜學校日、模範日曜學校、パジエント等。

●●會場 バラック式會場建設の豫定

●●時日 大正九年十月五日（汽船の都合によれば確定にせず）

●●●大會題目 「日曜學校を世界の進歩」

定價改正について

御一人にでも多く讀んで戴き度希望から今日迄殆原價のまゝで御送りいたして居りましたが、御承知の通りの世の中になりました爲本意ならずも値上げいたす事を餘儀なくされました。事情は今更くど〱しく申上ます迄もなき事と存じます。唯此事が本誌の前途に妨げとなりませぬやう、此際特に皆樣の御助力を御願申上度存じます。御友人に御紹介下さいます事は何よりの助でございますからどうかよろしく御願いたします。毎月數部餘分に取揃へてございます故御紹介用として御用ひ下さいませ。御一報次第當方から先樣に御送り申上ます。編者

編輯の後に

ひとりでに歌ひ出し度いやうな氣のする頃となりました。本部の前のお壕を櫻が飾るのも間もない事と樂しんで居ります。さて河井先生御留守後の初めての號である今月の本誌はかなりの不安と恐怖との後に生れ出たものでございます。幸ひ諸先輩の多大な御助力によりまして澤山の有益な又興味深い御稿を戴く事が出來ました。三好先生は大連日本基督教會の牧師として又其御夫人は本誌の永き讀者として皆樣の中に御存じの方も多くいらつしやいます事と存じます。聖クララについて御寄稿下さいました小出正吾氏は少壯實業家として御忙はしき御仕事を有つていらつしやる方であるにも係らず、編者の無理な願を快く御うけ下さいました事をありがたく存じて居ります。大橋房子樣についてはイスラエル物語の著者として又最近大阪朝日の懸賞に當選された新進女流作家として、皆樣すでに御承知の事と存じます。編輯顧問に御願いたしました森田松榮樣には相變らず陰に陽に一方ならぬ御助力を戴いて居ります。之等の方々の御好意に對しては感謝の言葉もなき次第でございます。誌友の頁は來月から實行する事にいたしました。今月は一二の方の御寄稿を割愛いたしましても尙紙數の不足を殘念に思ひました程澤山記事を惠まれましたので、其爲の頁を裂く事がどうしても出來ませんでした。春のお休みに御上京の節は何卒御立寄下さいませ。一九二〇、三、二〇、H・A

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度　前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共

	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載	
一行 金五拾錢	四分一頁 金五圓
半頁 金九圓	全頁 金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年三月廿八日印刷納本
大正九年四月一日發行

發行所　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　日本基督教女子青年會　電話番町四五六三番　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　河井道子　牛込區市ケ谷田町三ノ十二

印刷人　前川吉次郎　芝區[illegible]田和泉町七番地

印刷所　三成舍　右同所

Committee development has gone ahead with good purpose. Valuable new members have been secured and defnite committee Policies have been worked out, with united efforts to put them into action.

The Sunday service of Feb. 22 was memorable, in charge of the students' club, the "Koroen Club". Mrs. Nakaji, a Board member and president of the clud presided. There was much special music and an admirable talk by Mrs. Yamamoto, a graduate of Dr. White's Bible School in New York, who referred to the date as Washington's birthday and told many interesting things about her life in the cities of Washington and New York. There were about 40 present, representing 6 different schools, and Mrs. Nakaji closed the meeting with a fine explanation of the Association life and what it offers to all girls.

On Monday, March 1, the Board of Directors gave its usual meeting time to a special service in remembrance of Madame Hirooka, who had so large a part in the forming of the Osaka Association. The Board specially invited new members who have not yet fully known the Association, especially among their social acquaintance, and about 25 attended. Miss Hard spoke on the life of Madame. Hirooka, and Mrs. Hoshino and others also spoke briefly. Tea was served and a social hour enjoyed after the service.

News has been received that the Association may rent its present house for another year. As the option for a continued lease had been quite uncertain and the prospects for equally desirable housing were not strong, this news was truly welcome. The Association is most thankful for the recent visit of Miss Friedmann from New York. Though her time with us was all too short, her survey of the Osaka situation and her consultation with Association leaders on industrial and other problems as invaluable in its bearing on the future. Miss Kawai was with us a few days in February and her visit, as always, brought cheer and inspiration to the leaders and to the different groups which it was possible for her to meet.

paign beginning with a meeting in the Memorial Hall on Feb. 21 and closing with a meeting of workers on Saturday night of the 6th. The success was due to the faithful work of the many on the four teams, and of the Japanese secretaries, who called in many of the more difficult places, making many new friends for the association, besides new members. The winning team was headed by a business woman, Miss Chiyo Narita, the Kanagawa team following, composed mostly of women in homes.

A congratulatory meeting will soon be held for the workers in the association reception room. A meeting to welcome new members was held at the Y.W.C.A. hall on Saturday, March 13, at which time new films were shown of Y.W.C.A. work in France, China and America. As they were pictures of very different sides of assocation work from any here in Japan, they were especially interesting The Yokohama Association looks forward to the time when they will have a building large enough to entertain the entire membership. At present there are times when the building is so crowded with classes that it is difficult for two friends to find a place to sit down and have a chat.

Several changes have taken place in the secretarial staff. Miss Allchin. who have been with the Yokohama Association for nearly three years, has resigned, and returned to America by the Empress of Russia, March 20. Mrs. Suzuko Nitobe has resigned her work as emigration secretary, after two years, first in the office, and then in work for the girls who go abroad. Both of these secretaries will be greatly missed, and the gratitude and prayers of the association will follow them wherever they go. Miss Tada Hibi has taken Mrs. Nitobe's place, and as she has had three years experiance in Vancouver, is especially fitted for this work. Miss Soyo Yasuda, who was at one time with Miss Dalton in the Tokyo Residential Club, has come as matron to the dormitory, and Miss Yoshiko Hasegawa from Kinjo Jo Gakko, Nagoya, to take over the office.

A farewelltea was given for Miss Allchin on the afternoon of the tentn, at which Mrs. Murohara expressed the appreciation of the committee and association for her faithful work, and especially her generous giving of her musical gifts. After the speeches there were many jokes, and evervbody wished her God speed, and a happy future.

At the monthly meeting in March, the committee especially discussed the need for a foreign hostess house to accommodate women traveling alone in Japan, and the many young women who have recently come here for business houses, and are finding great difficulty getting accommodations in this crowded city, It is hoped that progress can be made very shortly along this line.

OSAKA ASSOCIATION.

The forward push of Association plans in the beginning of the New Year was halted a bit by the influenza prevalent in January. There was not so much illness among our members, but people kept at home to avoid the disease. Nightschool attendance was low and many of the usual gatherings postponed. In February things began to be normal again and we rejoiced in finding a gymnasium class teacher. who gives the nightschool girls a vigorous half-hour of folk-dancing exercise before each lesson time. The demand for conversational English and for music, both chorus singing and piano, is constant. There is one English "family class" of four members in a home near the Association, taught by one of the secretaries, and a group of primary school teachers wanting English has decided to take it through studying English Bible.

Rainbow Club plans are being developed with a twofold purpose: 1) to interest the girls of the graduating classes in the student Associations of the three mission schools and enlist their leadership for special service; 2) to form groups of young girls in the various neighborhoods of the leaders and train them in Rainbow Clubs with a view to later growth in Association life. A number of prospective leaders have volunteered and the city Association will lead them in organizing their groups.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

Volume 17 April 1920 Number 4.

NATIONAL COMMITTEE.

Several of the Japan secretaries have sailed for America during the last month. Miss Kawai and Miss Watanabe, the student secretary of the Tokyo Association sailed on March 5th. Miss Charlotte Adams who has been visiting in Japan as a representative of the National Board in America for several months, Miss Agnes Allchin of the Yokohama Association and Miss Emma Kaufman general secretary of the Tokyo Y.W.C.A. sailed on the March "Empress."

At the recent meeting of the National Committee, two secretaries were chosen to go to America to spend a year in the National Training School in New York. They were Miss Koto Yamamoto, the general secretary of the Osaka Y.W.C.A. and Miss Shina Nakanishi, the Educational secretary of the Tokyo Association.

Miss Ernestine Friedmann, Industrial secretary of the National Board in the United States, has been visiting in Japan for two weeks studying the conditions among industrial women. Among the places visited were factories in Osaka, Kyoto, and Kobe, country factories in the Suwa region and the factory community in Oji, a suburb of Tokyo. Miss Friedmann also talked with several of the leaders concerned with factory development in Japan.

TOKYO ASSOCIATION.

The English Speaking Society and the Leaders' Training Class of the Association recently listened to instructive talks on the condition of industrial women in Japan by Dr. Axling of the Baptist Mission. The latest statistics show that the number of industrial women has increased from 600,000 before the war 1,250,000 at present of this number 300,000 are girls under twenty years of age.

The girls from the Department of Communications who have been meeting at the Tokyo Association since last summer have recently organized themselves into a club of the Association. On Saturday, March 13th, 40 of them met at the Association for supper and a social evening.

The Tokyo Association has been having parties for young married people from time to time and on the 6th of March such an evening was arranged for. Forty people enjoyed the occasion.

The Tokyo Association also has a business girls' club for girls employed in offices in the city. They held a supper at the Association building on March 16th.

YOKOHAMA ASSOCIATION.

The Yokohama Membership Campaign was a real success, the final night showing a report of 551 new names, thus running considerably over the 500 aim. More have been coming in since. Two weeks were allowed, the cam-

胃腸新藥 タカヂアスターゼ

本邦人に最多數を占むる澱粉質不消化に因する胃腸障害に必要不可缺の藥品こして、多數の醫學者、臨牀家により確認賞用されつゝある本劑は、高峰藥學、工學博士の發見にかゝる强力なる澱粉消化素なり。尙本劑は近時の研究により、獨り澱粉質のみならず、人の膵液中に存在する殆どすべての消化酵素（蛋白質、脂肪其他の消化酵素）を含有し、而も其消化力は膵液に百倍することゝ闡明せらる。

本劑に關する內外醫家の實驗報告書あり、無代贈呈す

類似品多種あり、御購入の際は必ずタカヂアスターゼこ乞御指定。（各地藥舖にあり）

種類、粉末七瓦、十四瓦、廿八瓦、半磅、壹磅、錠劑（〇・一三）參拾錠、百錠、貳百錠、强壯酒八オンス入等あり。

緩和下劑 カスカラ糖衣錠

本品は頗る緩和に腸の蠕動を催進し、小骨盤臓の充血を起す事なく、爽快なる便通を來すを特色こせらる。常習便秘治療劑こして最も聲價ある新藥なり。

不良類似品多種あり御購求の際は必ず三共カスカラ糖衣錠こ指定せられたし。

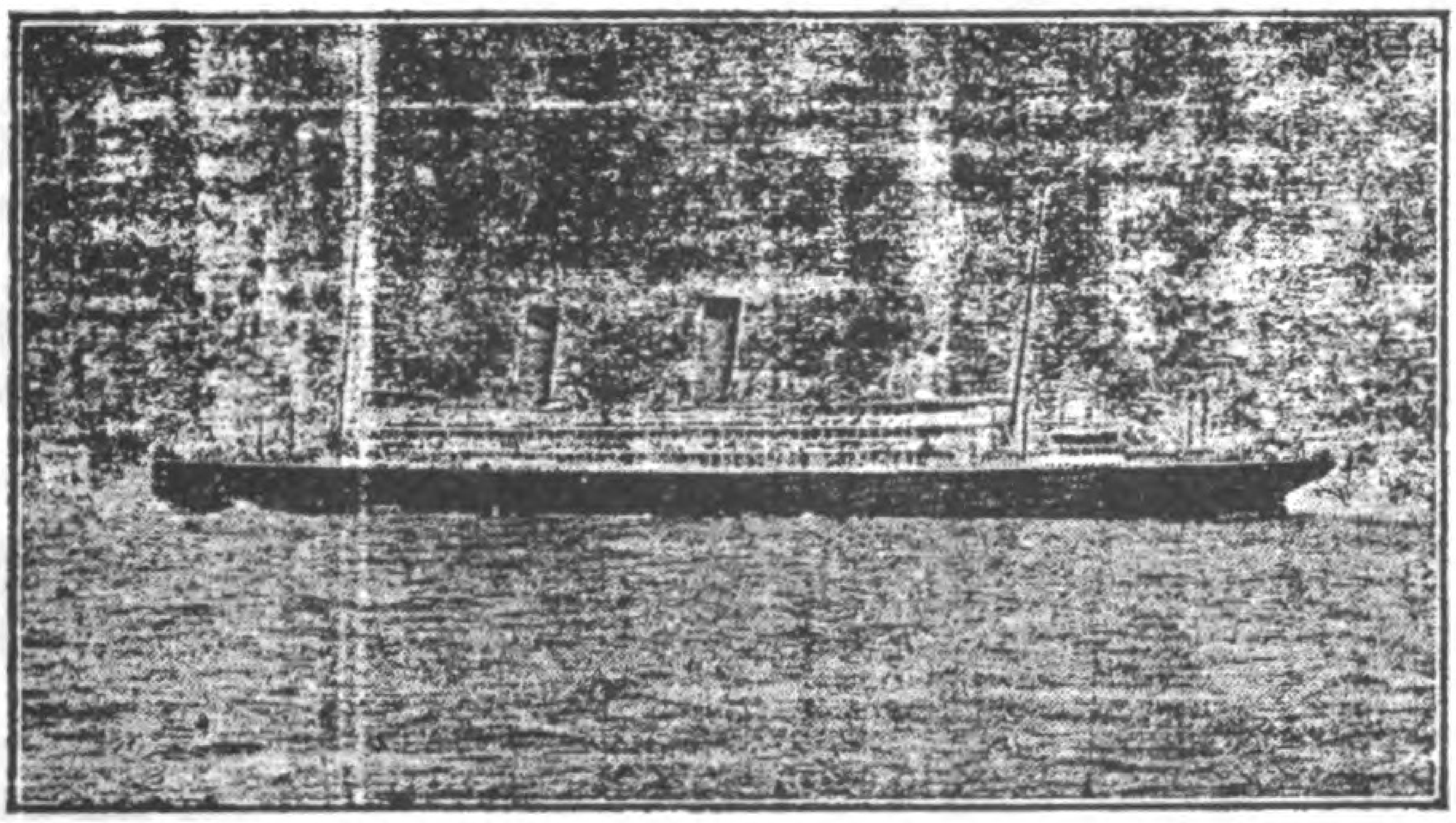
百錠入、五百錠入、千錠入の三種あり。

三共株式會社

本社　東京日本橋室町

出張所　大阪東區平野橋

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話本局四〇八〇 四〇八一 一五三一番）

營業所 横濱市山下町五番（電話四四〇〇、四四〇一 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六一五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルデング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

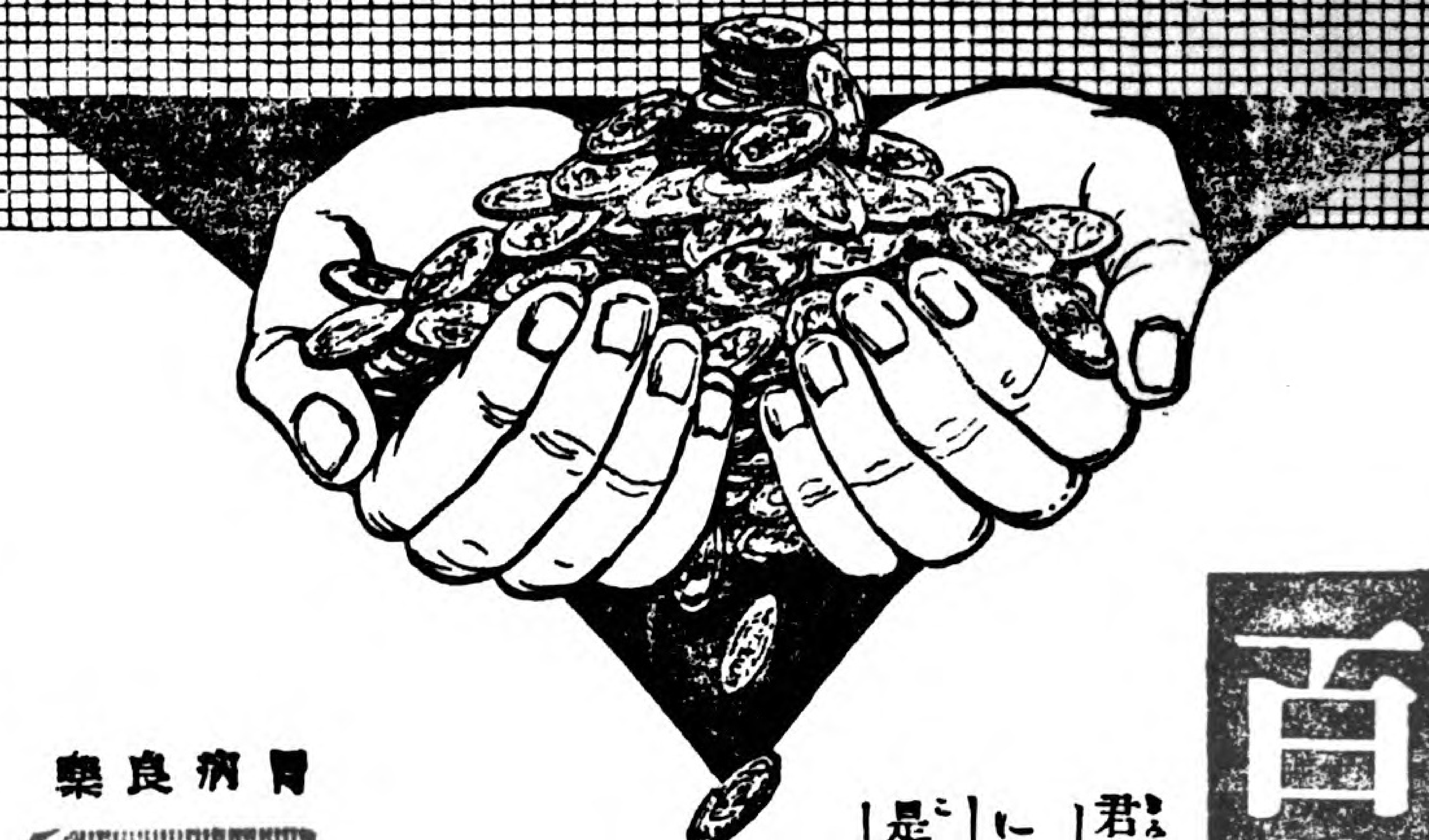
天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量 二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同 二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同 二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同 二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同 九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量 一八、七〇〇噸
紀洋丸	同 一七、二〇〇噸
靜洋丸	同 一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ



女子青年界第拾七巻第四號（毎月一回一日發行）
大正九年三月廿六日印刷納本 大正九年四月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可